

CONTENTS

- 01 日本のまちかど
江戸の昔から
おもてなしの街 成田
日本の玄関の役割も担う
新勝寺の門前町
- 05 特集対談 **Think Now** 第5回
成田スカイアクセスと
沿線の街
あすの成田国際空港と
注目の千葉ニュータウン
一橋大学大学院 山内 弘隆
商学研究科 教授
フリーアナウンサー 渡辺 真理
- 11 つくり出そう環境の最先進国 日本
[連載 第1回]
課題先進国「日本」が果たすべき役割
地球が持続的に発展するために
～ビジョン2050～
三菱総合研究所理事長
東京大学総長顧問(前総長) 小宮山 宏
- 13 *TownScope* タウンスコープ 第5回
なんといっても 私の「京都」
—生まれ育ち、いまわかりはじめた古都の魅力
シンク로스イマー 武田 美保
- 15 Theひと 世界に羽ばたく日本の若者
第1回
映画づくりの次代をひらく
「京都太秦物語」
立命館大学映像学部の学生たち
- 17 URのしごと
千葉ニュータウン地区
(千葉県船橋市 印西市 白井市)
- 21 URからのお知らせ
- 22 編集後記



日本のまちかど

江戸の昔から おもてなしの街 成田

日本の玄関の役割も担う 新勝寺の門前町

いま成田というと、だれもが成田国際空港をイメージしますが、そもそも成田山新勝寺であり、本尊のお不動様がシンボルでした。いまから千年以上もの昔、天慶2年(939)下総国に起こった平将門の乱に対し、時の朱雀天皇の密勅を受けた寛朝大僧正は、京の高雄山神護寺にまつられていた不動明王像を携えて関東に下り、この成田の地で平和祈願の御護摩を修めました。偶然にもその満願の日、天慶3年2月14日、兵乱が平定されたのです。朱雀天皇はこの不動明王の力に感動し、国司に命じて新しい寺院を建立、新たに勝ったことから「神護新勝寺」と名付けられました。ご本尊の不動明王像は弘法大師空海が自らつくったものといわれています。

新勝寺は開山以来伝わる出来事が読み物や芝居になったり、浮世絵になったりして参詣者は次第に増えました。江戸を出て船橋宿を経て成田へという手頃な道中の成田詣が盛んになり、農村だったこの地に次第に旅籠や商家が立ち並び、やがて賑やかな門前町が形づくられるようになったのです。また秘仏の開帳も人気を博し、江戸出開帳も含め23回を数えるようになり、豊国や国郷といった絵師によってその賑わいぶりが描かれました。

※1 出開帳：本尊などを他の土地に運んで行う開帳。